

2015 AUTOBACS SUPER GT Rd.1  
OKAYAMA GT 300km RACE



東 徹次郎  
TOHJIRO AZUMA

新チームと迎える大荒れの開幕戦！！

テスト不足で決勝が初ロングランながら、粘りの完走！！

- ・開催サーキット：岡山国際サーキット（3.703km）
- ・チーム：PACIFIC RACING
- ・マシン：PACIFIC マクラーレン with  $\mu$ 's

(McLaren MP4-12C GT3)

- ・カーナンバー：#9
- ・クラス：GT300
- ・ドライバー：白坂 卓也      東 徹次郎



## 公式練習（4月4日）

◆Weather : 曇り ◆Course : ウェット/ドライ

1時間半の公式練習から始まった SUPER GT 2015 シーズン。  
事前の富士でのテストをトラブルの為に満足に走れていなかった為、事実上この岡山が本当の走り始めでした。

だからこそ、この限られた時間は本当に重要視していました。

しかしながら、路面コンディションがほぼセミウェットのような状態から乾いていく方向でしたので、一番タイヤを壊してしまう路面状態となっていました。

それでもうちはドライバー2人ともマシンにまだまだ慣れていない状態ですので、まずはレインタイヤでの感触を掴むと共に2人とも計測をしておこうという判断で、中古のレインタイヤを潰すつもりでお互いに計測1周ずつしてピットに戻り、後は路面コンディションの回復を待っていました。

それもあって、まともにテスト出来る時間はすでに40分くらいしかありませんでした。

残りの時間ではメインでGT4シーズン目の白坂選手がタイヤを2種類試し、尚且つセットアップもしていくと本当に時間は無く、自分も交代してマシンの感触を確かめるのに計測1周行くくらいで、連続で4ラップほど出来たのはサーキットサファリのときしかありませんでした。

明らかに走行不足という不安要素は大きかったですが、それでも予選に向けてセットアップのアジャストもしたので、まずはQ1突破を目標に掲げて予選に臨みました。

**タイム : 1'30.743 (クラス 25 位)**

**自分 : 1'35.012**



## 公式予選（4月4日）

◆Weather：曇り ◆Course：ドライ

予選 Q1 は白坂選手が担当しました。  
公式練習のときよりもリアの車高を上げたりして微調整を加えて臨んだのですが、タイミングも悪かったせいもあり思うようにタイムが上がりません。  
30秒台を切って自己ベストこそ更新したものの、まだまだマシンバランスに納得がいかないのと、ストレートスピードも遅くテスト不足が響いてしまう内容となってしまいました。

予選結果：1'29.994（クラス 28位）



## フリー走行（4月5日）

◆Weather：雨 ◆Course：ウェット

日曜朝のフリー走行は30分のみと非常にタイトなスケジュールです。予定では白坂選手がスタート予定でしたので、ドライバーチェンジの練習も兼ねてこのフリーは白坂選手からスタートします。途中雨量が一気に増えて、クラッシュ車両まで出る荒れたコンディションとなります。

残り半分を切ったところでドライバー交代し、コースへ。自分の出たときは雨量が弱くなっていく方向でしたので、まずはコース上の水の量を確認しレインでのバランスも確かめながら序所にペースを上げていきました。想像していたより乗りやすく、コース上でライバル車を抜くことも出来て、抜いたり前に引っかけりながらの走行なのでタイムこそ21位でしたが、まだまだタイムアップ出来る確信もあり、割と自分にとっては良いイメージでこのフリー走行を終えることが出来ました。

**フリー走行結果：1'47.165（クラス 21位）**

**白坂選手：1'47.584**



## 決勝（4月5日）

◆Weather：曇り/雨 ◆Course：ドライ

決勝、雨は止んでいて数ラップすれば路面も乾いていきそうなのですが、まだスタート時点では路面は濡れていてインターミディエイト（浅溝レインタイヤ）の方が速いだろうという非常に微妙な路面コンディションの中でのスタートとなりました。

今回はGTでは初のスタートドライバーです。

スタートのポジションが最後尾ということもあり、エンジニアを含めたチームの決断は大きくポジションを上げていくなら賭けていくしかないということになり、スリックタイヤでのスタートとなりました。

無線でも‘前半は無理せず我慢だよ’ということと、‘とにかくしっかりタイヤに熱入れてね’というコメントが入ってきていました。

しかしながら、フォーメーションラップでも前にペースを上げられたらついていけないくらいスリッピーな状態で、特にマクラーレンはターボ車なのでアクセルの踏み始めを繊細に気を付けて踏み始めても、リアが暴れて飛んで行ってしまいそうくらいナーバスな動きでした。

屈辱ながらスタート時は当然大きく遅れをとってしまい、我慢の30周が始まります。

当然トラクションコントロールのダイヤルもMAXまで効かせていましたが、最初の5周から10周は加速段階では常に効いている感じで、2コーナーの後からアウトウッドコーナーまでのモスエスなんかは、ドライなら全開のところをどこに飛んで行くかわからないような状況なので、アクセルONのタイミングを常に感じ取りながら毎周緊張の連続の中で走行していました。

走行を進めるにつれ、もうタイヤのグリップが上がってきても良いはずなのに、予想以上に路面が乾いてこないという苦しい展開・・・。

このことが本当に大誤算で、グリップが上がらないから思うようにタイムも上げられず、レイン勢よりも前半はかなりタイム差があるので周回遅れになって譲る際も、自分のマシンはフラフラなので大きく道を譲らざる得ない状態でした。

完全に道を譲ることになってしまうので、途中まで自己ベストで走っていても譲る際に必ずタイムが落ち込んでしまい、結果的に1週のラップタイムが思うように上がらないという悪循環でした。

状況が良くなってきたのは、20周を過ぎてからです。  
この辺りからやっとスリックタイヤの方が速い周も出てきました。  
ただ、当然ライン上しかグリップしないので、500クラスの車両を行かせる際は本当に注意が必要でした。  
そして、やっとグリップ感も感じ取れるくらいになってきた矢先、無情にも雨が・・・。  
小雨だったので数周はコース上で引っ張ったのですが、急に雨脚が増えてきたので、自己ベストタイムを出した次の周に、30周を走ったところで白坂選手とドライバー交代しました。  
ピット作業ではスリックタイヤから浅溝のレインタイヤへ交換。  
ガソリンも最後まで持つようたっぷりと積んで、無事にコースへ。  
メカニックもベテランの精鋭揃いなので、さすがのピットワークで送りだしてくれました。  
レインタイヤでのペースはかなり良く、白坂選手の頑張りもあって20位まで順位を回復させていくのですが、交代してから電機系のトラブルが徐々に進行していくことに・・・。  
ワイパーが動かなくなり、終盤にはコーナリング途中で遂にパワステが効かなくなってしまう。それでも何とか復帰したのですが、ファイナルラップに入ったところで無情にも電機系トラブルでチェッカーを受けられずストップ・・・。  
完走扱いの23位で決勝レースを終えました。

**決勝結果：23位（ベストタイム：1'40.284）**

**白坂選手：1'41.715**



## 反省

今回は完全にテスト不足なところが影響し、走行時間も本当に少なかったためにマシンにも慣れていないということで、乗れば乗るほど車を理解して速くなるという状況でした。

まだちゃんとしたコンディションでのドライブが少ないので、マシンに対して手探りな部分も多いですが、次の富士はマシンの特性を把握してしっかり活かせるよう、セットアップがキマればマシンにとっても得意なコースになると思います。

自分もチームもマシンも改善していかなければならない部分は山ほどあるのですが、一つずつクリアして富士までにしっかり準備していきたいと思います。

今回のウェット路面でのスリックタイヤ走行も、これでは行けない、ダメと判断するならもっとしっかり早い段階で伝え、タイヤへの熱の入れ方ももっと工夫しなければと感じます。

結果的にスリックタイヤでのスタートは失敗でしたが、あの難しいコンディションでコースアウトもせず集中して臨めたことは自分にとって大きな経験になりました。





## 最後に

今回 SUPER GT 参戦に向け、本当に多くの方々に支えて応援して頂き、チャンスを得られたことに感謝しております。

新規チームということもあり、まだまだそれぞれが未知数な部分もありながらもモチベーションは高く、ここでやっていきたい、そしてここで結果を出していきたいと改めて感じました。

次の富士は車のポテンシャルを引き出せればチャンスのラウンドとなりえますので、今回の経験を必ず活かし、全力で努力しながらチーム一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2015年4月12日

東 徹次郎

